

# 梅津新聞

(近世編③)

2020年  
8月21日 金曜日常陸太田市郷土資料館  
(西二町 2186)  
TEL:0294-72-3201

この紋所が目に入らぬか!

## 「水戸黄門」ってどんな人?



昭和44年(1969)から平成23年(2011)にテレビ放送されたドラマ『水戸黄門』。そのモデルとなったのが、水戸藩第2代藩主徳川光圀です。ドラマの中で黄門様は家臣とともに諸国漫遊の旅に出かけさまざまな事件を解決していきますが、果たして史実の黄門様はどのような人物だったのでしょうか。

## 光圀が立派な藩主になるまで

光圀は寛永5年(1628)6月10日、家臣の家で生まれ、幼名は長丸といいました。光圀の父は水戸藩初代藩主頼房、母は側室のひとりであった久です。しかし光圀を身ごもった時、久はまだ側室ではなかったこともあり、光圀は

家臣の子どもとして生まれ育ちます。そして5歳で水戸城に入り、翌年6歳の時、正式に跡継ぎとなることが決まりました。その後江戸の水戸藩上屋敷※1の小石川邸に入り、9歳で元服し名を「光圀」と改めます。「圀」の字を使うようになったのは50歳を過ぎてから。江戸での光圀は、当時大流行していた「かぶき者」※2のような格好をして、両親や周りの人を困らせていました。しかし正保2年(1645)光圀が18歳の時、中国の歴史家司馬遷が書いた『史記』「伯夷伝(兄弟による跡継ぎの物語)」に深い感銘を受け、次の2つのことを決意します。

**決意1** 『史記』を見習い、立派な歴史書を編さん※3すること。

**決意2** 兄の子どもを3代藩主に立てること。↓光圀には兄が2人いました。長男の頼重を差し置いて藩主になったことが光圀の心にずっと引っかかっていたので、(次男の亀丸は4歳のときに亡くなっています)、『史記』を読んだことで、兄の子どもを養子に迎えその子を3代藩主にすることを決めました。

そして光圀はこれまでの行為を深く反省し、学問にはげむようになったのでした。

※1 上屋敷…江戸時代、大名は参勤交代制だったため、江戸にも屋敷を持つていました(水戸藩は定府制)。上屋敷は藩主と妻子などが住んでいました。

※2 かぶき者…派手な見た目で変わった発言をする者。

※3 編さん…資料を集め整理し、書物を作ること。

### 水戸藩ごぼれ話「黄門様」はひとりじゃない?

テレビドラマのおかげで、「光圀」水戸黄門というイメージが浸透しましたが、「黄門」というのは朝廷の役職「権中納言」の中国での呼び名です。光圀だけでなく、初代頼房をはじめ多くの水戸藩主がこの役職を与えられていたのです。実は「水戸黄門」はたくさんいたのです。

わたしたちも「水戸黄門」

初代 3代 6代 8代 9代 10代



## 藩主としての仕事

寛文元年(1661)8月、光圀は34歳の時に2代藩主に就任しました。ここでは光圀が藩主として行ってきた仕事の一部を紹介します。

■『大日本史』編さん 光圀の「日本の歴史を後世に伝えていく」という意思のもと明暦3年(1657)から編さんが始められ、光圀が亡くなった後も続きました。そして明治39年(1906)、250年もの年月をついやした402巻にも及ぶ歴史書『大日本史』が完成します。家臣を全国各地に派遣して、文献や遺物などを調査しました。なお、『大日本史』という書名は、正徳5年(1715)3代藩主綱條が決めました。

■社寺の整理 以前より神道と仏教は

結びつきが深く、神と仏は同じであるという「神仏習合」の考えがありました。つまり神社とお寺が同じ敷地に建っていたのです。光圀は「神仏習合」を改めるとともに、呪術・占いといった俗信や迷信などで民を惑わす新しい寺を取り除くため、社寺整理を行いました。寛文3年(1663)、藩内の社寺を把握

するために調査をし、それを開基帳にまとめ宗派ごとの帳簿を作り、処分や移転を行いました。また、神社については神仏分離を徹底させました。その結果、藩内にあった2377の寺院のうち1098が処分されました。なお、整理後は由緒ある古寺の保護なども行いました。

■文化財保護活動① 古碑修理 栃木県

大田原市の笠石神社には、国宝の「那須国造碑」が祀られています。天和3年(1683)光圀56歳の時、下野国那須郡小口村(現栃木県那賀川町)を訪れた際に碑の話聞き、草むらに埋もれていたその碑を修理しました。

■文化財保護活動② 古墳発掘 「那須

国造碑」の修理を行った後、光圀は碑に

刻まれた人物を求めて上侍塚・下侍塚古墳の発掘に取りかかりました。発掘の際に出土したものは私物化せず、絵師に書きとらせて箱に入れ、古墳の中に納めさせました。結果その人物はわかりませんでした。日本では初めて学術的な発掘をもつて行われた発掘調査と言われています。

## 光圀の晩年

■西山御殿跡【国指定文化財】 元禄2

年(1689)10月、光圀は63歳で藩主を辞め、兄の子綱條を3代藩主にしました。そして翌年5月、現在の新宿町にある「西山御殿」に移り住みます。なぜ隠居所としてこの場所を選んだかについては、①久昌寺や、初代頼房が眠る瑞龍山が近くにあるから②光圀が感銘を受けた「伯夷伝」の兄弟がこもつ

水戸藩こぼれ話「久昌寺」は母のために…

寛文元年(1661)10月、光圀が藩主となった2か月後に母の久が亡くなります。光圀は延宝5年(1677)、久の17回忌にあたる年に、現在の稲木町に久昌寺を建てたのでした(別のお寺と合併して、現在は新宿町にあります)。

たとされる山の別名が「西山」であったから③佐竹氏が治めていた土地に少人数で住むことで、人々の警戒を和らげ、水戸藩への不安感を取り除こうとしたから、など諸説あります。

西山御殿での光圀は、隠居の身でありながら、『大日本史』編さんに加え藩内の見回りを精力的におこなっていました。ドラマでは全国各地に出向いていますが、水戸藩領内以外で江戸幕府から訪れるのを許された旅先は、徳川家康

(光圀の祖父にあたる)を祀る日光東照宮(栃木県)と養祖母英勝院の墓がある鎌倉(神奈川県)のみでした。

■水戸徳川家墓所【国指定文化財】 初

代頼房から現在まで、水戸徳川家の当主とその夫人が代々眠る墓所が瑞龍山(瑞龍町)にあります。それぞれの当主とその夫人の墓は独立していて、光圀の墓に行く途中には寿蔵碑が建てられて



います。「寿蔵」とは生前に建てる墓のこととで、光圀は元禄13年(1700)73歳で亡くなる前、藩主時代に着用していた衣冠束帯※4を土に埋め、その上に自身が生まれてから藩主を辞めるまでの履歴を著した碑を建てました。

また、この墓所には水戸徳川家以外の者も埋葬されています。中国の学者、朱舜水です。寛文5年(1665)、光圀は朱舜水を師として水戸藩に招き、儒教※5や土木、天文学などさまざまなことを学びました。なお、頼房より前に水戸領を治めていた武田信吉もここに埋葬されています。信吉の墓ははじめ水戸

城下の善徳寺にありましたが、子孫がいなかったため、隠れ消えてしまうことを恐れた光圀がこの墓所に改葬しました。他にも、幼くして亡くなった藩主の子どもの墓などもあります。

※4 衣冠束帯：朝廷で行われる儀式などでの正装。



衣冠束帯

※5 儒教：「礼」をもって「仁(他人を思いやること)」を行うことにより、社会の秩序が保たれるという教え。